

世界初の「iPS細胞手術」を行ったと主張し、物議をかもした医科学研究者の森口尚史氏。本人に虚言癖と有名病があるのは確かだが、それを見抜けなかった大新聞記者、メディアはどうなっているのだろうか？

日本は肩書社会とされ、肩書さえあれば発言は信用されるという半面、そこには大きな落とし穴が待っている。森口氏は、米ハーバード大学客員講師、あるいは東大の特任研究員などと名乗った。しかし、東大医学部では、「特任」と付く人は多すぎて、担当教授以外は把握しようがないという。

そんなことも含めて、小学館の『週刊ポスト』（2012年11月2日号）の「検証 前代未聞の大誤報 PART 」で医療ジャーナリスト・元朝日新聞編集委員 田辺功氏と対談した。

検証 前代未聞の大誤報 PART2

医療・科学ジャーナリスト対談

なぜわが国の科学報道は
かくも拙劣なのか富家孝
(医療ジャーナリスト)VS
田辺功(元・医学ジャーナリスト、
元朝日新聞記者)

田辺功

大マスコミの「馬鹿あいつ」も、いかに「それこそ多少でも科学的知識があれば、森口氏のウソを見抜けたはず」——医師でジャーナリストの富家孝氏と元朝日新聞編集委員で医療ジャーナリストの田辺功氏は、こう口を揃える。

在野のプロとして医療関係に鋭い目を入れてきた2人が、捏造疑惑の本質を語り合った。

富家 読者の第一報を見た時、山中教授のノーベル賞が決まった直後にこんな記事が出るなんて、あまりにタイミングが良くない。思いもよらなかった。本当だった。これもノーベル賞のようです。驚いてすぐに森口氏の母校の東京医科大学の知り合いに問い合わせた。『そんな人間はまったくない』という。狭い業界なのに、同じ大学の関係者が知らないのはおかしいなと思いました。

田辺 私がまずアレっと思ったのは、iPS細胞を山中教授と通う方法でつくったと書かれていたこと。山中教授のiPS細胞は4つの方法のうちの1つでつくられた。森口氏はたしかに、iPS細胞をいじったという。それも前代未聞で、事実なら大変なこと。本当に可能なのかと首を傾げるをえませんでした。

富家 おかしな点はまだある。森口氏は医師ではなく、看護士の資格しか持っていない。最先端の臨床研究に看護士の資格で立ち会えるなんて、医療の現場を知る人ならありえない。とわかったはず。読者の記者は、そこから疑わなければいけなかった。田辺 私も同感です。そもそも読者の記者はこの「スクリップ」を書く前に、森口氏が医師免許を持っているのか確認してなかったのではありません。もし看護士の資格しかないとなっていたら、その人が中心メンバーとしてこれほどの大プロジェクトを仕切れるわけがない。私の経験からいって、科学部の記者だったら、すぐにピンときたはず。

富家 森口氏は、心臓細胞を「ドクドク」しているヤツです」と説明しています。専門家ならそんな表現はしないですよ。

そのおかしさに気づかない記者の質の低下は著しい。最近の科学部の記者でも、医師と医学博士がまったく別物だということすら理解していない。医師は国家試験に合格して医師免許を取得した人。医学博士は大学院で学び、論文を完成し、それが医学部の審査にパスして「学位」を取得